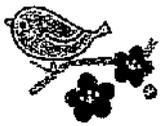


太宰府市俳句ポスト第百二十九回 入選者

令和七年十一月十二日〜令和八年二月十日



選者 阿比留 初見

入選句

霜晴といふまぶしさの文の宮	北九州市	元田 品子	
冬晴や砂紋の語る古刹の史	福岡市	児嶋 順子	
と見かう見菊師しばらく動かざる	朝倉市	味酒 ふじ子	
狛犬と銀杏落葉の只中に	朝倉郡	高尾 有子	
侘助の白一輪に心澄む	朝倉市	中村 美紀子	
砂紋にも色重ねたる冬紅葉	福岡市	草野 尚葉	
遠山の肩に重たき冬の雲	福岡市	飯田 智之	
多言語の案内バスや四温晴	福岡市	中野 弘子	
襟巻に顔をうづむる帰り道	古賀市	安松 莉来	
初みくじ震へる指に凶の文字	福岡市	谷口 舞	
袴着や声はづむ子の石畳	福岡市	松尾 咲良	
黒牛の目の優しさや冬日和	太宰府市	後藤 保子	
日没を待たず寄せ来る寒さかな	太宰府市	西元 治雄	
手袋に昨日のなごりまだ眠る	愛知県	近藤 祐弥	
丈六の仏仰ぎて煤払ひ	福岡市	白井 道義	
ころもがえ思い出の服見つけたよ	太宰府市	くらよし まい	十歳
たのしいなみんなですこすおおみそか	兵庫県	いずみ ふうか	十一歳
両の手をあわせてねがう初もうで	熊本県	新開 紗那	十一歳
ぼくたちの未来と共に梅つぼむ	福岡市	廣 翼	十一歳
梅香る願い重ねる朱の橋に	糟屋郡	清田 玲菜	十五歳

